

## セカンドシティーにおける文化施設整備の実態分析

福山大学 正 員 井上 矩之  
四日市市 正 員 〇 秦 雅人

## 1. はじめに

本研究では、各道府県の第一都市と第二都市を比べて、人口や産業以上に土木事業の1つである文化施設整備水準に格差があると思われるので、それをデータで実証する。具体的には文献で各道府県の第一都市、第二都市の文化施設の数や構成（管理者別）を調査し、比較してみようというわけである。

## 2. 調査方法

産業を調査する場合、都市を全体的にとらえたデータが必要であったので、税収を調査の対象とする事にした。そして、各道府県の第一都市、第二都市のリストアップの方法であるが、第一都市の場合は、県庁所在地がある都市にした。第二都市はどの部分で判断基準にしたらよいかで考慮した。結局、各道府県の第一都市を除いた都市の中で、人口が一番多い都市を第二都市とする事にした。尚、文化施設の調査には、NTT福山支局へ行き、全国のタウンページで行った。

## (1) 調査1

初めに、第一都市と第二都市の人口・税収を調べて、文化施設数と比較してみる。

## (2) 調査2

調査1では、人口・税収と文化施設数の全体数を比較したわけであるが、第一都市と第二都市で文化施設の数が同じであっても、都市の人口密度の大小で市民サービスに差が出てくる可能性がある。そこで第一都市、第二都市の単位人口当たりの文化施設数を算出して比較を行う。

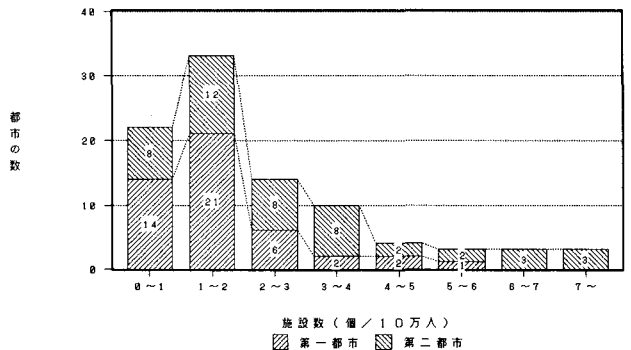


図-1 単位人口別文化施設数

## (3) 調査3

文化施設数を構成別に分類して比較してみると、部分ごとに異なった現象が出たり、全体量での比較とは別の結果が出る可能性がある。そこで文化施設を構成別に分類して比較してみる。尚、構成別とは文化施設の管理者（国立、県立、市立、私立）の事である。ここではその内の、県立・市立・私立をグラフに表してみる。

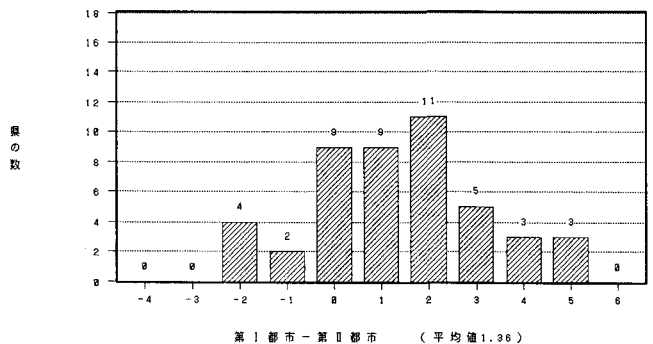


図-2 県立の構成

### 3. 分析

調査1では、第一都市と第二都市を比較してみると、人口・税収では共に75%以上が第一都市の方が多かった。しかし、文化施設数で比較してみると、第一都市が多いという割合は、65%だった。

調査2の単位人口別文化施設数をグラフで表してみると、0以上1未満、1以上2未満では第一都市の方が多いが、2以上からはその現象は逆転して、第二都市の方が多くなっている。6以上になると、第一都市の数は0となっている。平均値で比較してみると、第一都市の平均値は1.59（個/10万人）に対し、第二都市の平均値は2.85（個/10万人）となり、平均値で比較してみても第二都市の方が、単位人口別での文化施設数が多いという事がわかる。以上の様な結果から、単位人口別で比較した場合、第二都市の方が第一都市に比べて10万人当たりの文化施設数の値が大きい。つまり文化施設が充実しているという事がわかる。

次に調査3の三つのグラフを比較してみると、県立のグラフは全体的に第一都市の方が文化施設数が多い事がわかる。市立のグラフは第二都市の文化施設数の

方が若干多い。私立のグラフは、第一都市の文化施設の方が若干多い。平均値で比較してみると、県立のグラフの平均値は1.37 市立のグラフの平均値は-0.43 私立のグラフの平均値は0.5 となる。

### 4. むすび

仮説では、第二都市は第一都市に比べて人口や産業以上に文化施設の整備水準に格差があるという事であったが、今回の研究の文化施設の全体的な数の比較（調査1）（調査2）では、それを実証する事が出来なかった。しかし、（調査3）において文化施設を構成別に分けた分析では、両者の相違が明確になった。市立の文化施設数では、第一都市より第二都市の方が多いという事がわかった。つまり市立の建設に力を入れる事によって文化施設の全体数の格差が大きくなるのをカバーしている第二都市の実態が明らかになったという成果が得られた。

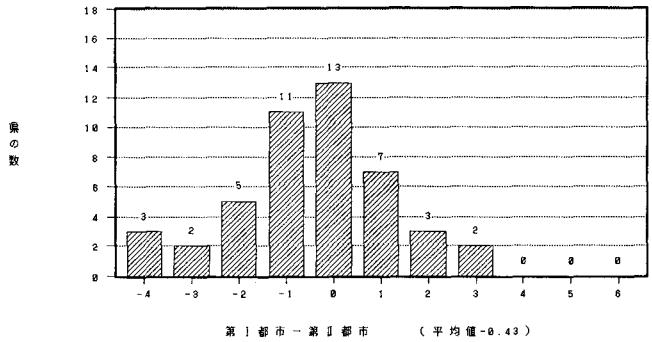


図-3 市立の構成

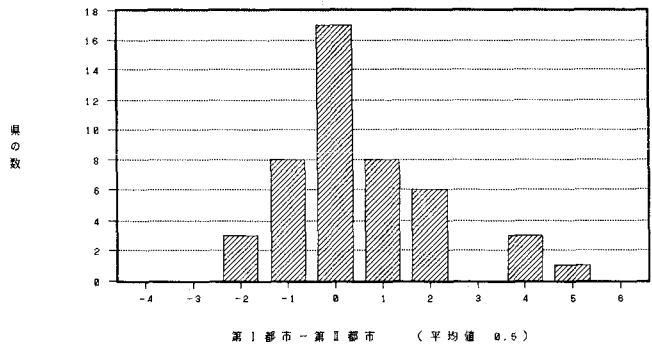


図-4 私立の構成